

ささえる力 Power

「ささえる力 Power」は、情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するコーナーです。

保つ ～地域とともに歩む～

筑後川は熊本県の阿蘇外輪山を源とし、有明海に注ぐ幹川流路延長143km、流域面積2,860km²の九州最大の河川だ。筑紫次郎の愛称で知られ、古くから農業用水、生活用水、発電などにより地域経済を支えてきた反面、度々水害にみまわれる河川でもある。そんな筑後川の河口から23kmの地点にある筑後大堰で、施設の維持管理に取り組む西岡に話を聞いた。

Profile

筑後川局筑後大堰管理室

西岡 芳尚 Yoshinao Nishioka

平成3年4月、土木職として水資源開発公団（現水資源機構）に入社。最初の配属先である浦山ダム建設所をはじめ、全国各地の事業所で工事監督や環境調査、維持管理業務などに従事。平成24年4月より現職。

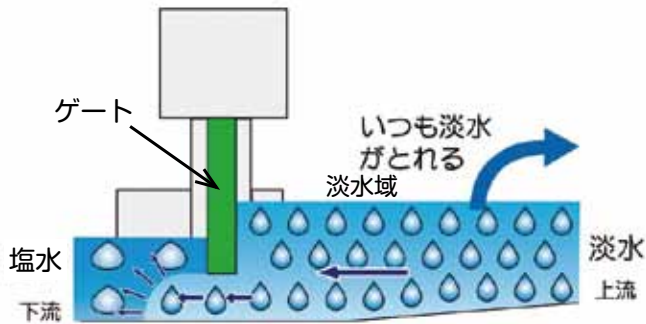
上下流から流れてくる水

筑後大堰が筑後川に横たわる地点は、福岡県久留米市と佐賀県三養基郡みやき町の境でもある。総延長約500mにも及ぶ筑後大堰の役割を西岡に聞いてみた。「役割は大きく分けて2つあります。1つは湛水域を保って水道用水や農業用水を供給しやすくする利水、もう一つは、洪水から地域の安全を保つ治水です。」

筑後川が流れ込む有明海は干満の差が大きく、最大で6mにも達する。この影響は、河口から23km遡った筑後大堰にも影響を及ぼす。「有明海の干満によって、堰の地点にも海の水が遡上してきます。堰の下流地域では、堰が出来る前は“淡水取水”という方法で農業用水を取水していました。」

淡水取水とは、主に上げ潮の時に海の水の遡上に乗って比重の軽い真水（淡水）が戻されてくる際に、上澄みの真水部分を取水し、クリークと呼ばれる水





筑後大堰での基本操作のイメージ(平常時)



路に引き込み利用する方法だ。地域に無くてはならない水だが、この方法では塩分が混じったり、取水量も安定しない上、取水操作には技術と経験が必要で大変な苦勞をされたという。

「筑後大堰では、ゲート調節により上流側の湛水位を高く、一定に保つことで塩水の遡上を防ぎ、堰から上流を常に淡水に保ちます。(イメージ参照)そのため、1日2回の潮の干満に合わせた堰の操作を意識しつつ、降雨や取水状況などによって変化する上流から流れてくる水量にも対応する必要があります。堰の上流側の湛水位を一定に保つことは、上流での水道用水や農業用水の安定した取水とも繋がっているの、これらを意識しての水位管理には目が離せません。」

下流側の潮の干満と上流からの流水量を常に確認しながら行われるきめ細やかな操作には緊張感が伴う。

地域の安全を保つ

一方で、筑後大堰の治水機能とは、どの様なものだろうか？西岡に聞いた。



「筑後川では、昭和28年の大水害を初めとした幾つもの水害が発生してきました。筑後大堰

が造られる前の大堰付近には、石積みの固定堰があったり洪水が流れる川の広さが十分ではなかったため、治水上、安全ではありませんでした。このため、河道の掘削や石積みの固定堰の撤去を行い、筑後大堰が作られました。洪水時には堰のゲートを水面の上まで引き上げ全開にすることで、洪水の安全な流下が保てるようになりました。」

これからも地域にとっては恵みの川であり、時として牙をむくこともある川と向き合う日々が続く。

ゴミとの闘い

この様に、大雨の際にも周辺の安全を確保している筑後大堰だが、雨の時には困ったことが生じているという。「雨が降り川の水量が多くなると、上流から草や流木、空き缶やペットボトルなど、様々なゴミが流れ着きます。ゴミが溜まるとゲートの操作に支障を及ぼす他、堰の上下流を行き来する船の通行の妨げや自然環境の悪化など、様々な問題が生じます。」

このゴミの処理はどうしているのだろうか？「ゴミの処理は外注し、船を使って回収し、処理しています。ただし、堰の操作に支障が生じるような緊急事態には、職員自ら操船し回収することがあります。」梅雨時や台風の後など、年に10回以上出動し、ゴミの回収を行っているという。



西岡は、この他に水質調査や生物の調査など環境業務も担当している。また、筑後川では、毎年10月の第4日曜日に約2万人が参加する“筑後川一斉清掃(ノーポイ運動)”の取り組みが行われている。「この取り組みには、水機構の職員も多数参加しています。これからも地域の皆さんと連携し皆さんとともに親しまれる筑後川、筑後大堰を保っていけるよう頑張っています。」

ゴミの回収に欠かせないのが船。西岡の操船技術は事務所で右に出るものはいない凄腕だと、事務所の管理職が教えてくれた。

